血液の使われ方

皆さまの善意の献血は、高度な製剤技術の下で最大限に有効に活用され、次のように使われて患者さんの生命を守っています。

血液成分製剤

赤血球製剤
外科手術時や貧血などの治療

血小板製剤
血小板産生低下による血小板減少症などの治療

血漿製剤
外科手術時や外傷などの治療

全血製剤

血液細胞成分及び血漿成分を同時に必要とする場合

血漿分画製剤

アルブミン製剤
やけどの治療やショック状態からの回復

免疫グロブリン製剤
感染症の予防や治療

血液凝固因子製剤
血友病の患者さんなどの治療

石川県献血推進協議会・石川県健康福祉部・石川県赤十字血液センター発行「わけ愛献血」より一部抜粋

血液の役割

成人で体重の約1/13を占める血液は、人体の機能を維持するために欠かせないものです。血液と凝固剤を試験管に入れしばらく放置すると、大きく分けて二つの層に分離します。上層に浮かんでくる液体は血漿で、下層に沈殿してくるのが血球です。

血液の働き

赤血球	肺で酸素を取り込み、体の各部に運搬します。
血小板	ケガなどで血管が傷ついて出血したとき、傷ついた部分を見つけて張り付き、周りの他の血小板や凝固因子を引き寄せて、血栓を作り出血を止めます。
白血球	病原体やガン細胞を直接、あるいは抗体を作って間接的に攻撃し、病気から体を守る働きをしています。 輸血において白血球が関与する副作用としては、発熱反応・TRALI・CMVなどの感染症などがあります。
血　漿	血漿は全身をめぐって、栄養素やイオン、水、ホルモン、などを運び、不要物や余分な水を持ち帰ります。 また、体温調節作用、身体の保護（アルブミンによる組織の適正な水分維持など）、止血作用（血小板とともに凝固因子が働く）などの働きをします。

石川県赤十字血液センター発行 「あゆみ」より一部抜粋